

日本発 イノベーション 創出を 目指して



新年の始まりにあたって、ご挨拶申し上げます。

昨年を振り返りますと、JSTがこれまで支援してきた京都大学の山中伸弥先生がiPS細胞の研究でノーベル生理学・医学賞を受賞されるなどの明るいニュースがありました。その一方で、わが国は、長引くデフレ基調からの脱却、エネルギー・環境問題の解決、東日本大震災からの復興・再生の加速等の喫緊の課題を抱えて新年を迎え、科学技術の戦略的な活用による課題解決に向け、研究者や科学技術関係者への期待が高まっています。

戦略的創造研究推進事業で取り組んでいる基礎研究は、いずれも独創的かつ挑戦的であり、成果が世に出るまでに時間もかかります。しかし、このような基礎研究から生まれた成果こそが、わが国が直面する課題を解決し、未来の国力の源泉となり得るものです。私たちの使命は、革新的な研究成果をもとに、新しい社会的、経済的価値を生み出すことであり、このために研究開発システムの改革が求められています。

とりわけ、国として明確なビジョンを共有すると共に、先見性のあるリーダーのもとに「日の丸チーム」を形成して、戦略的な研究開発に強力かつ継続的に取り組むことが重要です。このためには、研究者の自由な発想にもとづくボトムアップ型のアプローチに加えて、産学官が共創する分野融合型の「アンダー・ワンルーフ」の研究拠点の構築やそのネットワーク化に向けた体制づくりと、さまざまなプロジェクトを組み合わせた戦略プログラムの推進が必要です。大学・公的研究機関、産業界、金融、行政などの能動的な参画も欠かせません。JSTは、このような新しいイノベーション・エコシステムの構築に向けて注力していきます。

また、関係諸国との連携を強め、外国人研究者の活用を通じた頭脳循環や、地球的規模の課題解決に向けた国際共同研究を通じて、イノベーション活動のグローバル化を加速します。更に、ビッグデータ時代やマルチハザード時代の到来といった環境変化に対応した科学技術情報流通や、理数系人材の育成、科学コミュニケーション等の科学技術イノベーションを創出するための基盤を整備していきます。

チームワークで日本発科学技術イノベーションの創出に果敢に挑戦しましょう。皆様のご理解とご協力をお願いします。

2013年1月吉日

独立行政法人 科学技術振興機構 理事長

中村道治